

# 視察（研修）報告書

令和7年 8月 9日

府中市議会議長 様

会派名 COMMONS 未来

日 時	令和7年8月8日
視察（研修）先	府中市役所4階 第一委員会室
視察（研修）項目	認知症世界の歩き方について
参 加 者	COMMONS 未来 議員、市職員数名（オブザーバー）
視察（研修）内容	<p>○認知症世界への旅 認知症のある方を「異国の地を旅する旅人」と定義。 認知機能の低下により、景色や音がどのように歪んで見えるのか、デザインの力でどう解決できるかの概論を学習。</p> <p>○ナゾ解き・推論ワーク 特定のトラブル事例に対し、その背景にある認知機能のメカニズム（視覚の変容、記憶の断片化など）をグループで推論。</p> <p>○環境デザイン・ 認知症の方が安心して生活できる環境にするための具体的な工夫（照明の調整、サインの改善など）を、多角的な視点で議論。</p>

<p>所 感</p>	<p>○「本人の困りごと」の自分事化 従来の「症状としての認知症」という医学的側面だけでなく、本人が感じている不安や戸惑いをストーリーとして体験することで、参加者の共感の解像度が飛躍的に高まった。これは、単なる知識付与を超えた意識変容につながるものである。</p> <p>○「課題解決」から「環境デザイン」への転換 「認知症の人をどう助けるか」という福祉的な視点に加え、「誰もが使いやすい環境をどうデザインするか」というユニバーサルデザインの視点が共有された。これにより、専門職だけでなく、商店街や交通機関、一般市民など幅広い層が関与できる余地が明確になった。</p> <p>○府中市内で実施する事で期待される効果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理的バリアフリーの醸成 認知症に伴う行動の理由を「ナゾ解き」のように理解することで、市民の不安や忌避感を払拭し、地域内での自然な見守りと声掛けを促進します。</li> <li>2. 多世代共生社会の加速 デザインや対話を中心とした手法により、若年層や現役世代の関心を高め、府中市の次代を担う世代を含めた広範なネットワークを構築します。</li> <li>3. 地域資源の最適化と活性化 自治会や商店街、教育現場等において「本人視点」が共通言語化されることで、ハード・ソフト両面でのユニバーサルデザイン化が進み、結果として「認知症の人にも、すべての人にも優しい府中市」の実現に寄与します。</li> </ol> <p>○今後、市民を巻き込んだ取り組みとなるように提言していきます。</p>
------------	--